

# 当事者目線にたった バリアフリー評価指標のあり方の検討

## 現状（課題）

- 施設のハード・ソフト面のバリアフリー環境について、バリアフリー基準に定める要件はクリアされていても、**当事者の目線に立ったアクセシビリティや使いやすさが十分に確保されていないケース**等が存在。
- そこで、バリアフリー環境を**当事者目線で評価（点検）・検証**することが重要であり、そのための新たな**“ものさし”**が必要。

## 施策の内容

- 国や施設設置管理者自身による**当事者目線に立ったバリアフリー環境整備の促進**のため、アクセシビリティや使いやすさを点検するための“ものさし”としての「**当事者目線にたったバリアフリー評価指標**」を策定。

- ◆評価指標の検討に当たっては、実際に各施設について**バリアフリー環境の現地調査**を行う。そこで、**当事者による評価**や**施設設置管理者との意見交換**を実施し、当事者目線の気づきを得る。
- ◆また、現地調査等を通じて得られた**当事者参画・当事者目線での整備に関する好事例**をとりまとめ、評価指標と併せて、施設設置管理者主体の環境整備に向けた**知見・ノウハウ蓄積の後押し**を図る。
- ◆なお、当事者目線の評価項目については、必要に応じて、移動等円滑化基準等の**バリアフリー基準やガイドラインの内容への反映**を検討。
- ◆策定した指標については、**施設設置管理者自身が施設のバリアフリー評価・検証等に活用**していくことにより、**当事者目線に立ったバリアフリー改修の促進**につなげていく。



## 今後の進め方

- 本省の事務局において、「空港のユニバーサルデザイン」の評価項目を参考として、**指標の素案を作成**。
- 当事者参画の下で**評価会議（※）にWGを設置、現地調査**を行い、指標素案の**評価項目に当事者目線を反映できるよう精査**。なおWG設置に当たっては**“プレ調査”を実施**し、本番の現地調査に向けた**現場のオペレーション等を検証**予定。
- 現地調査に当たっては、まず**日常生活に密接に関連する鉄道関連施設を対象**とした上で、乗り換え等による複雑性がない**基本的な構造の駅について調査**を実施。（今後、複雑な経路や付加的な構造を有する駅においても実施を予定。）
- さらに、駅での指標案を用いた点検の実証的な実施等、**地方ブロックにおける取組の展開**を想定。

（※）移動等円滑化評価会議：  
バリアフリー法に基づき、当事者参画の下、定期的にバリアフリー化の進展状況を把握・評価するための会議。

- 令和4年3月 ・**第7回評価会議**において、WG設置や今後の進め方を議論。
- 令和4年度 ・**プレ調査**を実施。プレ調査での調査体制等の検証結果を踏まえ、**WGを設置**。  
 ・駅の**基本構造の現地調査**を行い、そこで**当事者による評価や事業者との意見交換**を実施。  
 ・現地調査の結果を踏まえ、**指標素案の項目精査や好事例の収集**を進める。
- 令和5年度 ・対象駅を広げ、**複雑な構造の現地調査**を実施。さらに、地方を含め、事業者自身による**指標案を用いた点検を実証的に実施**。これらの実施結果について、**項目精査や好事例収集へ反映**。  
 ・上記2か年の取組の成果を踏まえ、評価指標に関する**報告書**をとりまとめ。

R4.3

R4.4~

**評価会議  
(第7回)**

・**プレ調査**  
・**WG設置**

**WG (現地調査)**

駅の**基本構造**を調査、**当事者による評価と意見交換**を実施。



**WG (指標精査)**

現地調査を踏まえ、**指標素案**について議論、**項目**を精査。



**評価会議 (第8,9回)**

WGの開催結果を報告し、**指標素案の内容や全体の進め方**等を議論。



**好事例収集** 当事者参画・当事者目線での整備に関する好事例についても並行して収集を進める。

R5.4~

R6.4~

**WG (現地調査)**

駅の**複雑な構造**を調査、**当事者による評価と意見交換**を実施。

**実証点検**

指標案を用いて実際に事業者自身による**点検**を実施。  
(地方を含む)

**WG (指標精査)**

現地調査や実証点検を踏まえ、**指標案**について議論、**項目**を精査。

**評価会議 (第10,11回)**

WGの開催結果を報告し、年度内をメドに、**評価指標の策定**に関する**報告書**のとりまとめを行う。

**運用開始**

策定した**評価指標**の運用を本格的にスタート。**全国の駅**における活用を目指す。

**好事例収集** R4年に引き続き収集を進め、年度内をメドに、**報告書**と併せてとりまとめを行う。

# 当事者目線にたったバリアフリー評価指標の作成イメージ

評価項目は、施設内の個々の設備毎の整備状況にとどまらず、他交通機関や施設との接続、移動経路の分かりやすさ、ソフト面での対応状況など、施設を取り巻くバリアフリー環境を総合的に評価できるよう、多面的に設定。

評価項目	評価の視点
①交通アクセス	鉄道からバス・タクシーへの <u>乗り継ぎ</u> のしやすさ <u>乗換案内</u> の表示の分かりやすさ 等
②移動空間	駅構内の <u>移動経路</u> の把握しやすさ <u>各設備へのアクセス</u> のしやすさ(サインの連続性) 等
③設備	券売機の使いやすさ(目線の位置等) <u>バリアフリースイール</u> の使いやすさ(広さ、扉の開閉等) <u>EV・エスカレータ</u> の使いやすさ(広さ、音声案内等) <u>点字ブロック配置</u> 、音声案内が適切か 等
④人的支援	駅係員による <u>声かけ</u> 状況 ホーム上における乗車案内対応の円滑さ 他施設との接続部における <u>連続的な対応</u> の有無 等
⑤情報	Webページのアクセスしやすさ・使いやすさ 案内表示やコミュニケーションの際の <u>情報保障</u> の程度 <u>緊急時の案内体制</u> の確保の状況 等
⑥取組	独自の計画・方針など組織としての <u>UD方針</u> の有無 設計段階からの <u>当事者参画</u> の有無 駅係員の <u>接客技能向上</u> のための研修の有無 等

項目ごとに、評価を実施する際の視点(ポイント)を細かく掲載。現状の内容は事務局のイメージであるため、今後、現地調査を通じて当事者の目線を反映するとともに、バリアフリー基準やガイドラインが求める要件との関係についても整理を予定。

...

施設設置管理者のセルフチェックや当事者による実際の評価の結果を記述。項目ごとに当事者目線の“気づき”を可視化することで、定期的な改善状況の確認や、今後の改修計画の立案等に活かすことを想定。

※あくまで現時点のイメージであり、各項目については、現地調査等を踏まえ内容を精査予定。